

第55回景況アンケート調査 結果報告書

(令和4年7月29日作成)

足利商工会議所

足利市通3丁目2757
Tel.0284-21-1354 Fax0284-21-6294

《令和 4年4月～6月期》実績
《令和 4年7月～9月期》見通し

調査要領

1. 調査目的

本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、今後の経営支援や関係機関への施策、要望等の参考に資することを目的とする。

2. 調査期間

令和4年6月22日(水)～令和4年7月15日(金)

3. 調査対象企業

足利商工会議所議員事業所、足利地区雇用協会事業所など市内主要企業207社
(うち回答企業数151社：回答率72.9%)

4. 回答企業数

製造業	58	社
繊維工業	13	社
建設業・設備工事業	20	社
卸売業・小売業	29	社
飲食業・サービス業	31	社
計	151	社

5. 景況指数DIについて

分析方法[景況動向指数(DI)による]

景況指数は、好況・不況の差を指数にしたものであり、基準指数が「0」で、上限はプラス100・マイナス100となり、プラスは景況の好転(増加)、マイナスは景況の悪化(減少)をあらわしている。

DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要になっている。

DI方式は、
$$\frac{3x - 3z}{3x + 4y + 3z} \times 100$$
により算出

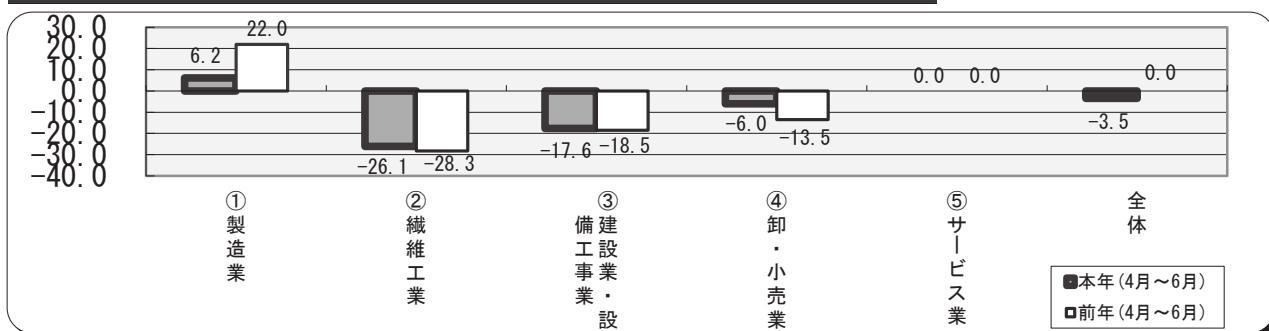
x：「好転」「増加」「上昇」等の回答企業数

y：「普通」「適正」の回答企業数

z：「悪化」「減少」「下落」等の回答企業数

I. 当期（4月～6月）の景況について

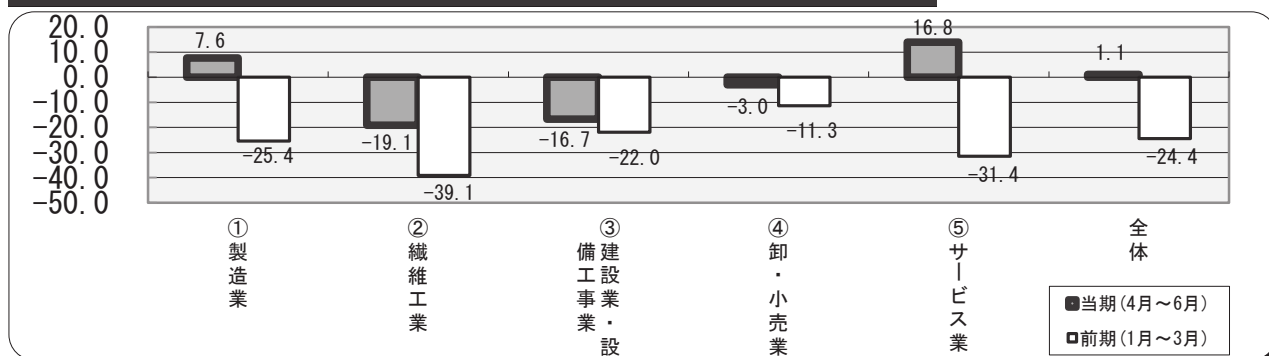
1. 当期の業況は前年同期（1年前）に比べて



【業況D I】

当期の業況D Iは、全体では▲3.5ポイント（前年同期0.0）と、前年同期に比べて3.5ポイントマイナスに転じた。業種別では、製造業は15.8ポイント減少、繊維工業、建設設備工事業・サービス業はほぼ横ばい。一方、卸小売業は7.5ポイントマイナス幅が減少しており、全体的には依然としてマイナス傾向が多い状況が続いている。

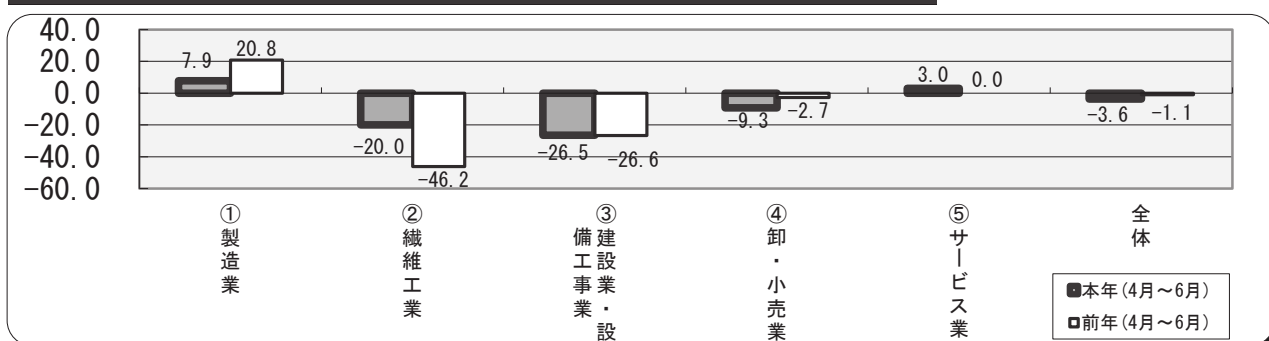
2. 当期の業況は前期（3ヵ月間）に比べて



【前期（前3ヵ月間）業況D I】

当期の業況D Iは、全体では1.1ポイントと、前期（前3ヵ月間▲24.4）に比べて25.6ポイント上昇しプラスへと転じた。業種別では、すべての業種においてマイナス幅が縮小しているが、製造業とサービス業においては大幅に縮小しプラスへと転じている。

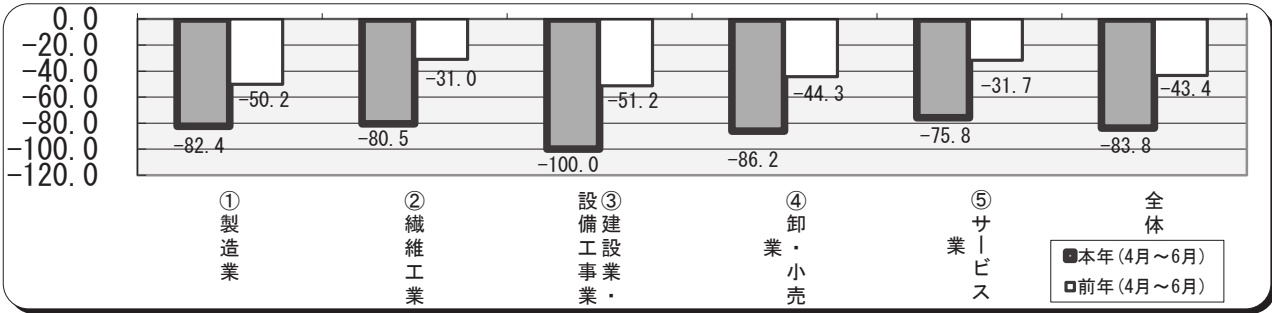
3. 売上高は前年同期に比べて



【売上高前期D I】

売上高D Iは、全体では▲3.6ポイント（前年同期▲1.1）と2.5ポイントマイナス幅が拡大している。業種別では建設業・設備工事業、卸・小売業でマイナス幅が増加。一方、繊維業ではマイナス幅は縮小、サービス業では3.0ポイントプラスに上昇した。

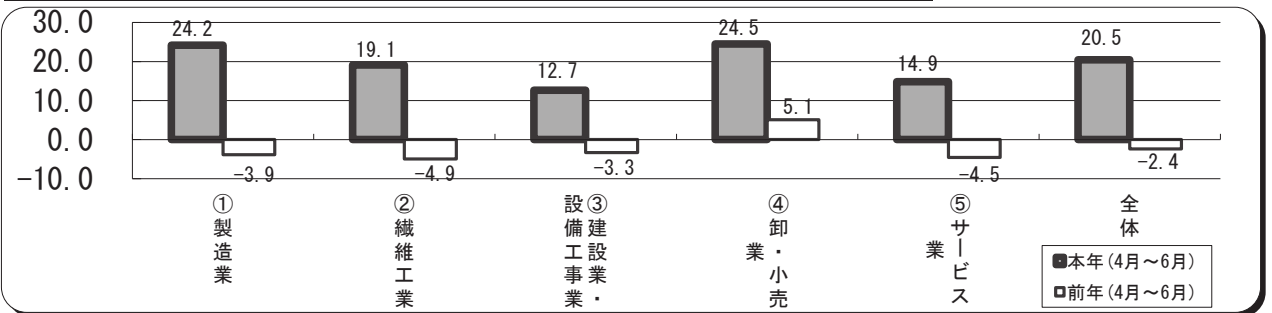
4. 仕入価格（原材料）は前年同期に比べて



【仕入価格（原材料）D I】

仕入価格（原材料）D Iは、全体では▲83.8ポイント（前年同期▲43.4）と前年同期に比べて40.4ポイントマイナス幅が拡大した。業種別では、全業種でマイナス幅が大幅に拡大しており、全体的に仕入価格上昇の傾向にある。

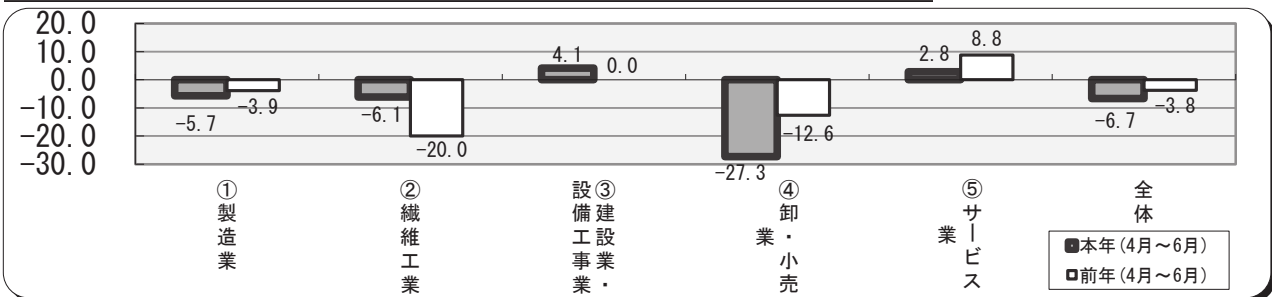
5. 受注・販売価格は前年同期に比べて



【受注・販売価格D I】

受注・販売価格D Iは、全体では20.5ポイント（前年同期▲2.4）と前年同期と比べ22.9ポイント上昇しマイナスからプラスに転じた。業種別では、全業種がプラスに転じている。

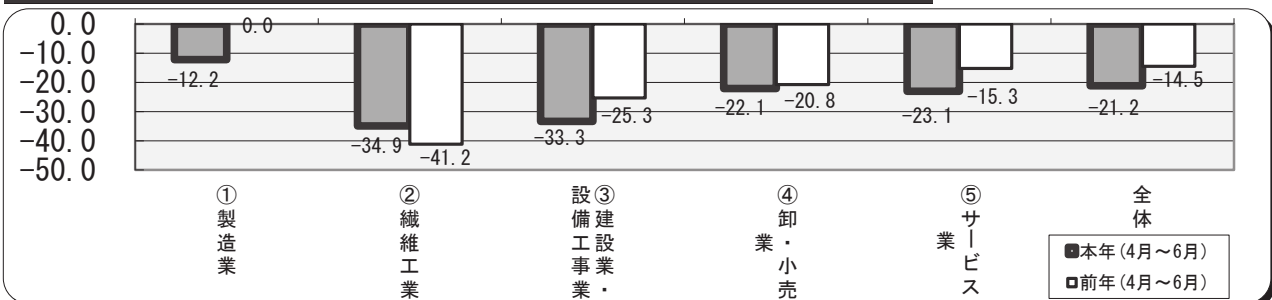
6. 当期の製品（材料）在庫は前年同期に比べて



【在庫D I】

当期の製品（材料）在庫D Iは、全体では▲6.7ポイント（前年同期▲3.8）と、前年同期に比べて▲2.9ポイントマイナス幅が増加。業種別では、卸・小売業で在庫不足にある一方、建設業・設備工事業では適正在庫の傾向にある。

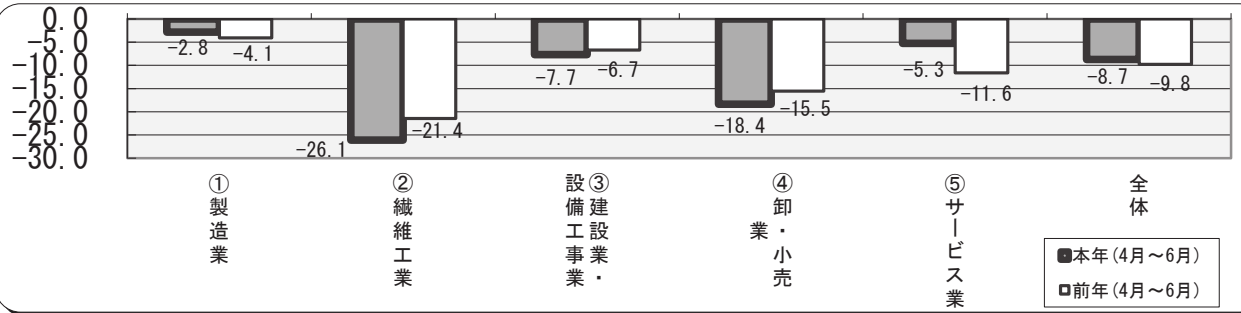
7. 利益状況は前年同期に比べて



【利益状況D I】

利益状況D Iは、全体では▲21.2ポイント（前年同期▲14.5）と、前年同期と比べて6.7ポイントマイナス幅が増加。業種別では、製造業、建設業・設備工業、卸・小売業、サービス業はマイナス幅が拡大。繊維工業は、マイナス幅が縮小しているが、利益状況は依然減少傾向にある。

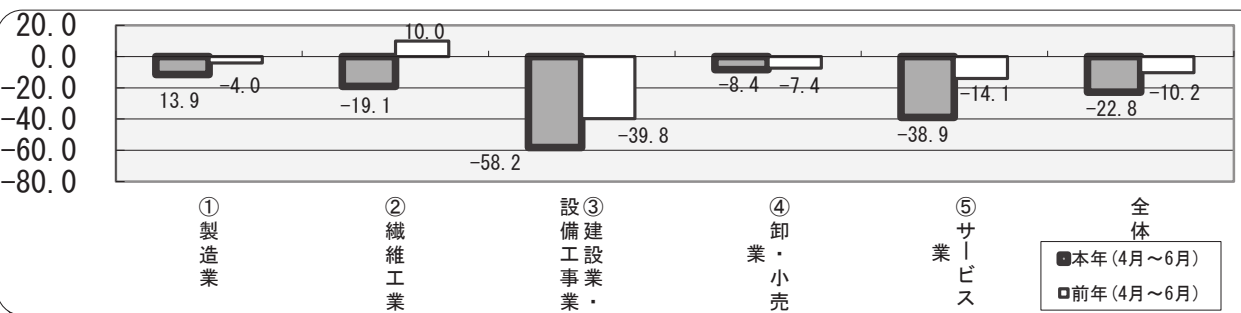
8. 資金繰りは前年同期に比べて



【資金繰りD I】

資金繰りD Iは、全体では▲8.7ポイント（前年同期▲9.8）と、前年同期と比べて1.1ポイントマイナス幅が縮小した。業種別では、繊維工業、建設業・設備工業、卸・小売業でマイナス幅が拡大。製造業、サービス業ではマイナス幅が縮小してはいるが、依然として資金繰りが悪化している傾向が見られた。

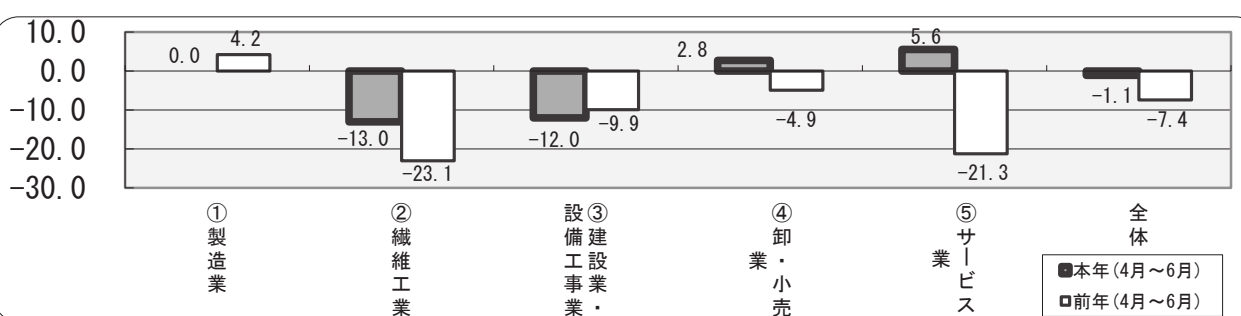
9. 労働力は前年同期に比べて



【労働力D I】

労働力D Iは、全体で▲22.8ポイント（前年同期▲10.2）と、前年同期に比べて▲12.6ポイント悪化しマイナス幅が拡大した。業種別では、繊維工業が▲19.1ポイント（前年同期10.0）とマイナスに転じ、その他のすべての業種でもマイナス幅が拡大。全体的に労働力の不足が見られる結果となった。

10. 設備稼働率は前年同期に比べて

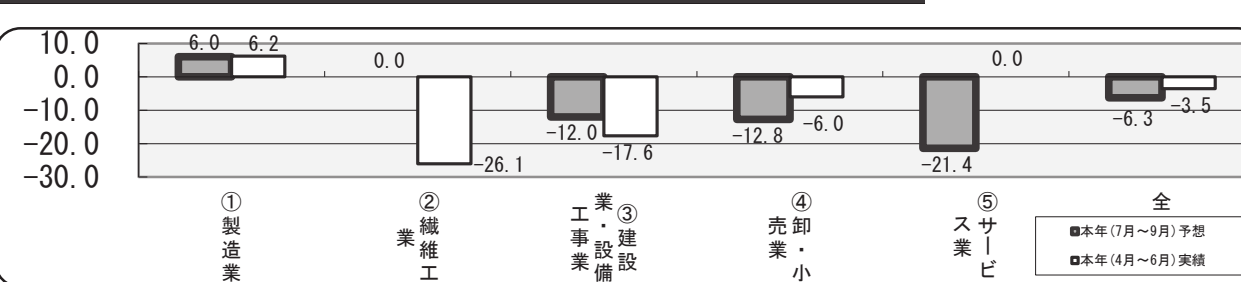


【設備稼働率D I】

設備稼働率D Iは、全体で▲1.1ポイント（前年同期▲7.4）と、前年同期に比べて6.3ポイントマイナス幅が縮小。業種別では、繊維工業が10.1ポイントマイナス幅が縮小、卸・小売業、サービス業ではプラスに転じ、設備稼働率は正常という回答が多かった。一方で、製造業では4.2ポイント減少、建設業・設備工業では、2.1ポイントマイナス幅が拡大し、整備稼働率は低下傾向にある。

II. 今後3ヵ月間(令和4年7月~9月)の推移の予想について

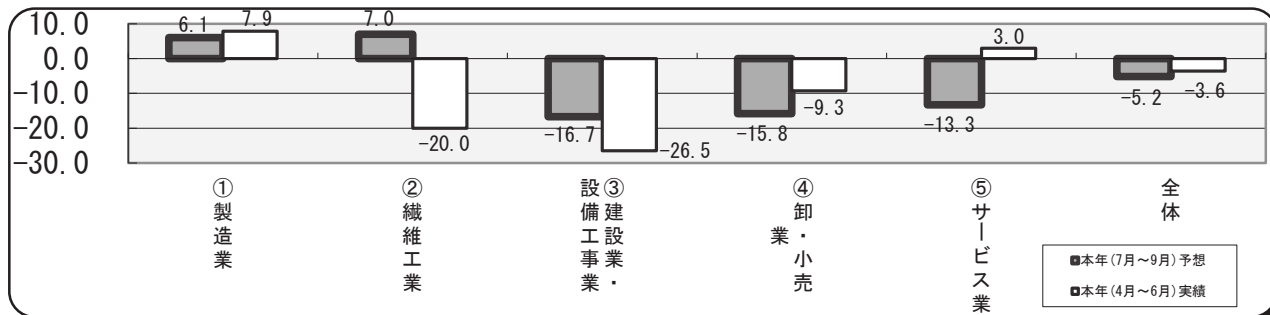
11. 業況は当期(4月~6月期)に比べて



【業況(当期に比べて) D I】

今後3ヵ月間の先行き見通しD Iは、全体で▲6.3ポイント(当期▲3.5)と、2.8ポイントマイナス幅が拡大した。業種別では、繊維工業のマイナス幅が大幅に縮小、建設業・設備工事業もマイナス幅が縮小した。一方、サービス業はマイナス幅が大幅に拡大しマイナスに転じ、急激な悪化の見込み。

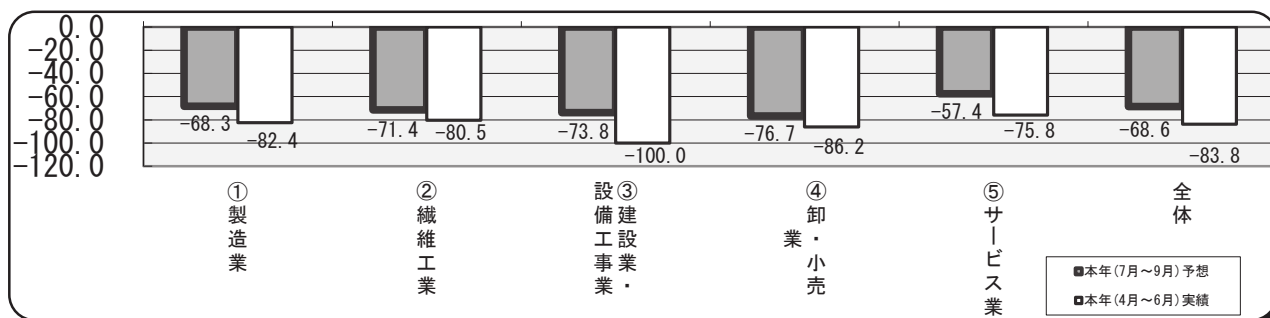
12. 売上高は当期(4月～6月期)に比べて



【売上高(当期に比べて) D I】

売上高D Iは全体で▲5.2ポイント(当期▲3.6)とマイナス幅が拡大する見込み。業種別では、卸・小売業は6.5ポイントマイナス幅が拡大、サービス業は▲13.3ポイントとマイナスに転じ悪化が見込まれる。一方、繊維工業は▲20.0から7.0ポイントとプラスに転じたほか、建設業・設備工事業は9.8ポイントマイナス幅が縮小する見込み。

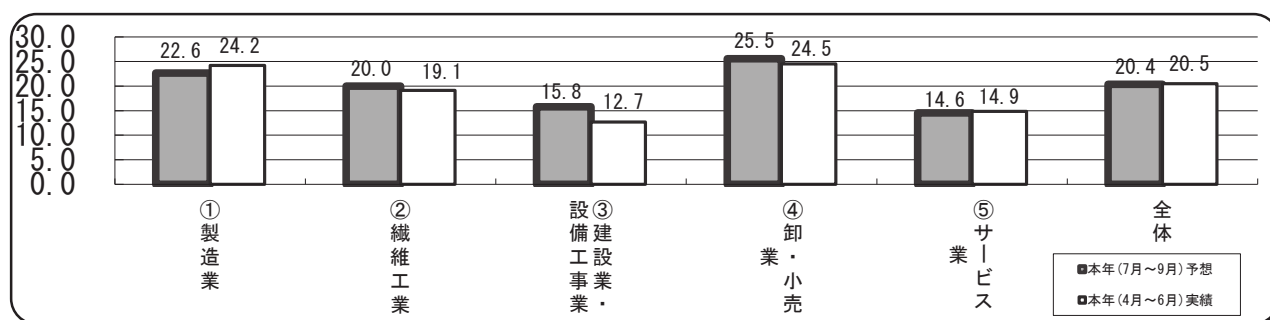
13. 仕入価格(原材料)は当期(4月～6月期)に比べて



【仕入価格(原材料) D I】

仕入価格(原材料)D Iは全体で▲68.6ポイント(当期▲83.8)と、15.2ポイントマイナス幅が縮小する見込み。業種別では建設業・設備工事業で26.2ポイントマイナス幅が拡大しているが、そのほかの業種でも当期と比べ、多少の動きはあるものの、依然として価格の上昇が続く見込み。

14. 受注・販売価格は当期(4月～6月期)に比べて

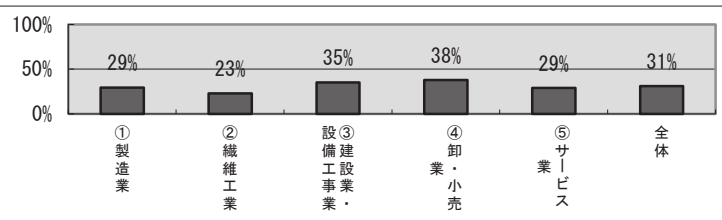


【受注・販売価格D I】

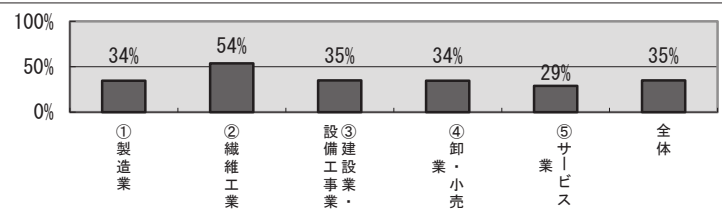
受注・販売価格D Iは全体で20.4ポイント(当期20.5)と、ほぼ変わらない見込み。業種別では、全ての業種が当期と同様に受注・販売価格の上昇を予想する回答が多かった。

Ⅲ. 当期直面している経営上の問題点

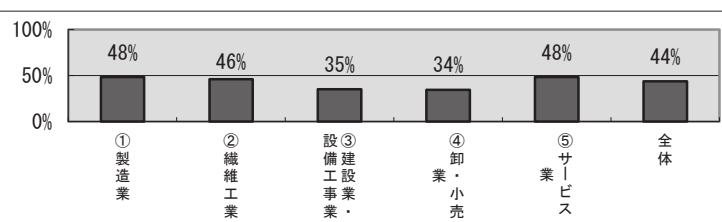
1. 経営の見通し（将来性）	
①. 製造業	17
②. 繊維工業	3
③. 建設業・設備工事業	7
④. 卸売業・小売業	11
⑤. サービス業	9
全 体	47



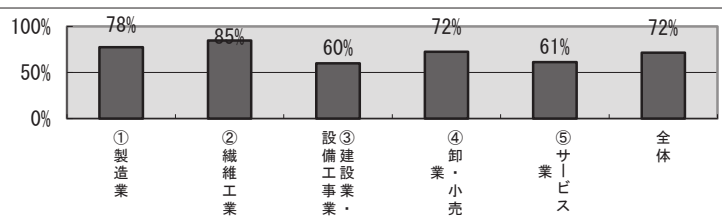
2. 売上（受注）の低下	
①. 製造業	20
②. 繊維工業	7
③. 建設業・設備工事業	7
④. 卸売業・小売業	10
⑤. サービス業	9
全 体	53



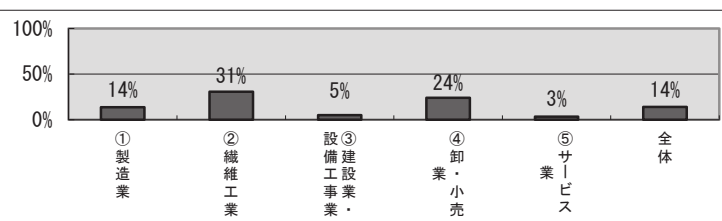
3. 原油価格上昇による収益の悪化	
①. 製造業	28
②. 繊維工業	6
③. 建設業・設備工事業	7
④. 卸売業・小売業	10
⑤. サービス業	15
全 体	66



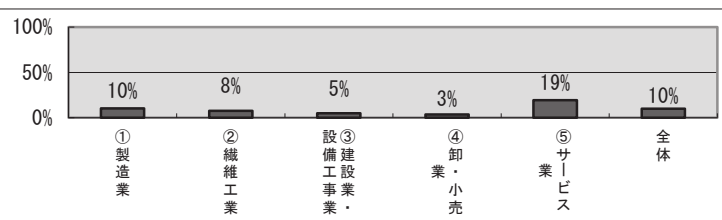
4. 原材料（商品）仕入価格の上昇	
①. 製造業	45
②. 繊維工業	11
③. 建設業・設備工事業	12
④. 卸売業・小売業	21
⑤. サービス業	19
全 体	108



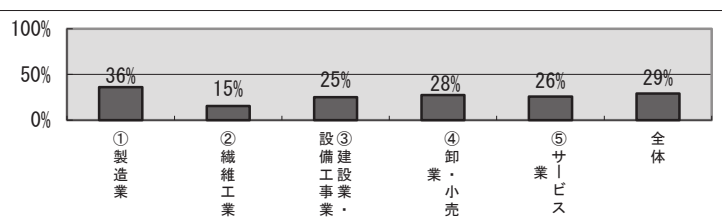
5. 資金繰りの悪化（資金調達など）	
①. 製造業	8
②. 繊維工業	4
③. 建設業・設備工事業	1
④. 卸売業・小売業	7
⑤. サービス業	1
全 体	21



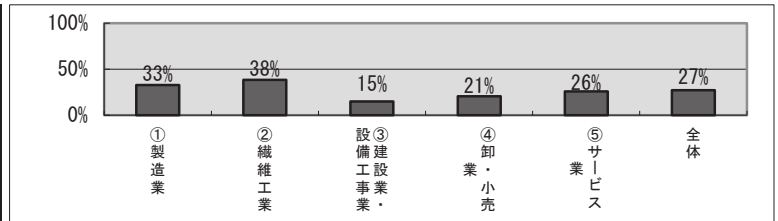
6. 既存事業の立て直し（コスト削減等）	
①. 製造業	6
②. 繊維工業	1
③. 建設業・設備工事業	1
④. 卸売業・小売業	1
⑤. サービス業	6
全 体	15



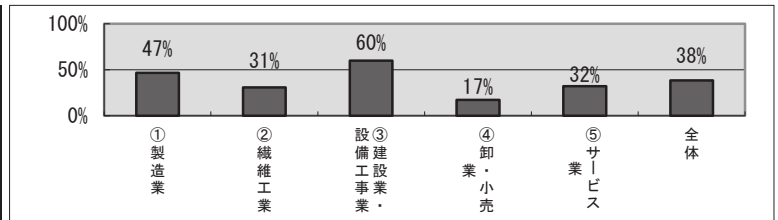
7. 経費（人件費・外注費）の増加	
①. 製造業	21
②. 繊維工業	2
③. 建設業・設備工事業	5
④. 卸売業・小売業	8
⑤. サービス業	8
全 体	44



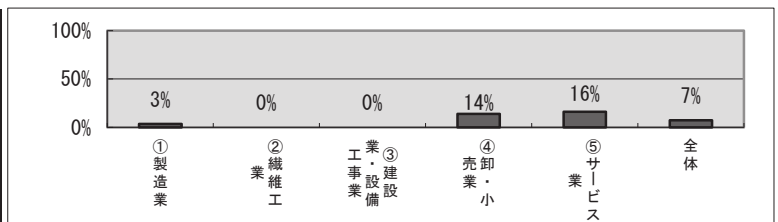
8. 設備・店舗・工場等の老朽化	
①. 製造業	19
②. 繊維工業	5
③. 建設業・設備工事業	3
④. 卸売業・小売業	6
⑤. サービス業	8
全 体	41



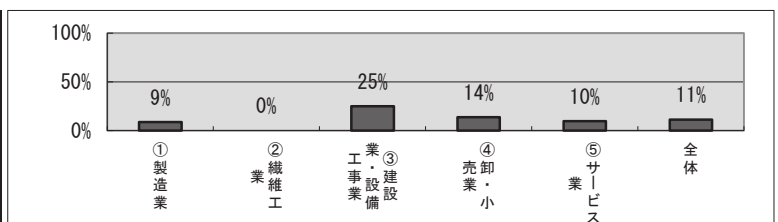
9. 従業員・技術者等の確保難	
①. 製造業	27
②. 繊維工業	4
③. 建設業・設備工事業	12
④. 卸売業・小売業	5
⑤. サービス業	10
全 体	58



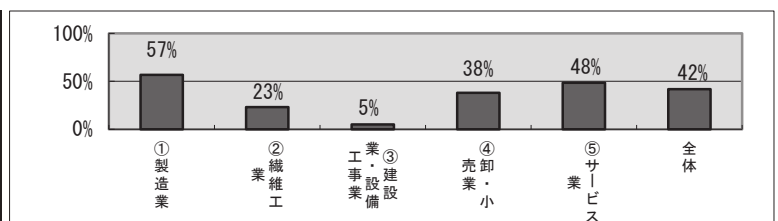
10. 消費者（製品）ニーズの変化	
①. 製造業	2
②. 繊維工業	0
③. 建設業・設備工事業	0
④. 卸売業・小売業	4
⑤. サービス業	5
全 体	11



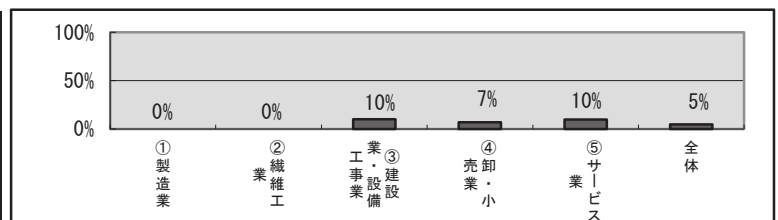
11. 業者間(大企業進出・新規参入)競争の激化	
①. 製造業	5
②. 繊維工業	0
③. 建設業・設備工事業	5
④. 卸売業・小売業	4
⑤. サービス業	3
全 体	17



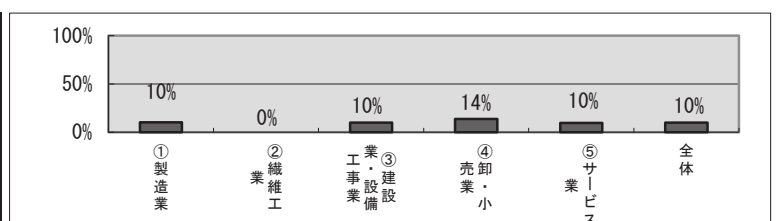
12. 後継者難と事業承継	
①. 製造業	33
②. 繊維工業	3
③. 建設業・設備工事業	1
④. 卸売業・小売業	11
⑤. サービス業	15
全 体	63



13. 改正電子帳簿保存方への対応	
①. 製造業	0
②. 繊維工業	0
③. 建設業・設備工事業	2
④. 卸売業・小売業	2
⑤. サービス業	3
全 体	7



14. インボイス制度への対応	
①. 製造業	6
②. 繊維工業	0
③. 建設業・設備工事業	2
④. 卸売業・小売業	4
⑤. サービス業	3
全 体	15



【経営上の問題点】

経営上の問題点では、全体で「原材料（商品）仕入価格の上昇」と回答した企業が72%で最も多く、次いで「原油価格上昇による収益の悪化」（44%）、「後継者難と事業承継」（42%）、「従業員・技術者等の確保難」（38%）、「売上(受注)の低下」（35%）、「経営の見通し（将来性）」（31%）、と続いている。全業種が「原材料（商品）仕入価格の上昇」を一番の問題点として挙げており、建設業・設備工事業では、「従業員・技術者等の確保難」の問題が顕著になっている。

【景況に関することや直面している問題点等のコメント】

◎製造業

- ・ エネルギー価格の高騰に価格転嫁が追い付かない。猛暑続きで職場の環境改善が求められてきている。
- ・ 原材料の値上げのスピードに、価格の見直し交渉が追いつかない。※得意先の単価の見直しに1～2か月かかるため、決まった時にはすでに見直した単価より高い金額で購入しているのが現実。
- ・ 原材料の入手困難、価格の上昇が続いています。電力料金の負担が大きくなっています。
- ・ 円安、世界情勢、アフターコロナの影響等でコロナ前の市場、勢いが戻ったとは言えないし、今後も期待ができない。その中での10月の最低賃金の改定は社内の雇用を見直さないと厳しいかもしれない。
- ・ 輸入原料を多く使用しているので、円安の影響をもろに受けており、更なる円安が心配。
- ・ 為替きついです。円安で利益出ません。
- ・ 資金繰りの悪化（限界）
- ・ 当期は、得意先の生産調整に直面して売り上げが減少、今後は得意先の業績が好調なこともあり、売上増を見込んでいる。

◎卸・小売業

- ・ ウィズコロナになってきて商品の流通は3年前に戻ってきている。値上げが進んでいるので買い留めなどで凌いでいるが追いつかない状態にある。

◎飲食・サービス業

- ・ 今年後半から本格的な借入金の返済が始まります。資金力の弱い中小企業にとっては非常に厳しい局面を迎えます。できれば、国縣市ならびに銀行との協議を重ね有効な手立てを期待します。
- ・ 人員の採用が難しくなった
- ・ 地方活性を求める。若年層が多く残り、安定して生活できる町にする。

◎建設業・設備工事業

- ・ 売上も利益も前年より15%減少しており、今後も売上の減少が続くと厳しい状況となりそうです。1社1社の頑張りが地域社会の発展に継がるとの思いの基、頑張りたいと思います。宜しくお願い致します。

足利市のチラシ折込調査レポート (2022. 5)

調査地：足利市伊勢町

2022年5月の足利市の折込広告枚数は263枚で前年比マイナス6.1%（前々年比はプラス82.6%）であった【※栃木県4地区平均では325.3枚、前年比+3.8%】。

※栃木県4地区…足利・宇都宮・那須塩原・小山

サイズ別では、B4(A4)サイズが最も多く全体の57.4%であった。次いでB3(A3)サイズの38.8%となり2種類のサイズが95%以上を占めた。また曜日別では、火曜日が最も多く全体の19.0%に上り（ゴールデンウィークの影響）、次いで土曜日の18.3%、日曜日の17.5%、金曜日、水曜日、木曜日、月曜日と続いた。

業種別では食品スーパーが69枚（前年比-1.4%）で、先月に引き続き首位となった。2位は医薬・化粧品で39枚（前年比-13.3%）、3位は家電・精密機器で20枚（前年比-13.0%）であった。4位は衣料洋品店で18枚（前年比-18.2%）、5位は輸送機器で13枚（前年比-7.1%）となり、上位5業種の中では、医薬化粧品、家電・精密機器、衣料洋品店が2ケタのマイナスとなった。

		12月	1月	2月	3月	4月	5月
足利	枚数(枚)	330	314	275	377	317	263
	前年比(%)	▲12.0	+3.0	+2.6	+5.6	▲3.6	▲6.1
	前々年比(%)	▲7.8	▲11.8	▲19.4	+13.6	+62.6	+82.6
栃木県平均	枚数(枚)	392.5	364.8	319.3	417.0	382.3	325.3

※栃木県平均…宇都宮・那須塩原・足利・小山地区の平均枚数

業種別出稿枚数ランキング(足利市)

(2022年5月1日～31日)

順位	業種(細分類)	枚数			前年比(%)	前々年比(%)
		22年	21年	20年		
1	食品スーパー	69	70	20	-1.4	+245.0
2	医薬・化粧品(ドラッグストア・通販等)	39	45	26	-13.3	+50.0
3	家電・精密機器	20	23	4	-13.0	+400.0
4	衣料洋品店	18	22	15	-18.2	+20.0
5	輸送機器(自動車・カー用品等)	13	14	6	-7.1	+116.7

サイズ別枚数(2022年5月1日～31日)

サイズ別				
B1(A1)	B2(A2)	B3(A3)	B4(A4)	B5(A5)
0	5	102	151	5
0.0%	1.9%	38.8%	57.4%	1.9%

曜日別枚数

(2022年5月1日～31日)

曜日別						
日	月	火	水	木	金	土
46	21	50	34	26	38	48
17.5%	8.0%	19.0%	12.9%	9.9%	14.4%	18.3%

調査：(株)栃木読売 IS